

<p>問12:活動を主に展開している地域はどこですか？ 都道府県名で教えてください。</p>	<p>※下記の白色のセルに具体的にご入力ください。</p>
<p>問13:現在、抱えている課題について教えてください。あてはまるものすべてにチェックしてください。</p>	<p><input type="checkbox"/>活動資金の不足 <input type="checkbox"/> 活動する人材の不足</p> <p><input type="checkbox"/>活動に協力する専門家(医師、弁護士等)の不足 <input type="checkbox"/> 人材の育成の困難</p> <p><input type="checkbox"/>活動の場所がない <input type="checkbox"/> 活動に使用する資材の不足</p> <p><input type="checkbox"/>活動に関する情報の不足 <input type="checkbox"/> 活動に関する専門知識の不足</p> <p><input type="checkbox"/>運営ノウハウの不足 <input type="checkbox"/> 行政などの支援制度の不足</p> <p><input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)</p> <p>※具体的に:</p>
<p>B 地方公共団体（行政）との連携・協働について</p>	<p>該当する欄にチェックをする際には、空欄の□の部分(チェックボックス)をクリックしてご利用ください。</p>
<p>問14 地方公共団体との連携の経験がありますか？</p>	<p><input type="checkbox"/> はい</p> <p>…チェックされた方は下記の「連携の内容についてもご記入ください。</p> <p><input type="checkbox"/> エイズ対策に関する行政計画の立案・提言にエイズNPOが関与</p> <p><input type="checkbox"/> 行政とエイズNPOによる懇談会や協議会の開催</p> <p><input type="checkbox"/> 行政とエイズNPOの協働によるイベント開催</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対する研修を実施</p> <p><input type="checkbox"/> 普及啓発を受託</p> <p><input type="checkbox"/> 検査事業を受託</p> <p><input type="checkbox"/> 相談業務を受託</p> <p><input type="checkbox"/> その他の業務を受託</p> <p><input type="checkbox"/> 事業への後援を受ける</p> <p><input type="checkbox"/> 活動支援を受ける</p> <p><input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)</p> <p>※具体的に:</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>…チェックされた方は下記の「しない(望まない)理由」についてもご記入ください。</p> <p><input type="checkbox"/> 連携できる行政がどこかわからない</p> <p><input type="checkbox"/> 行政のNPOへの関心が不明</p> <p><input type="checkbox"/> 連携の専門的知識の不足</p> <p><input type="checkbox"/> 人材の制約</p> <p><input type="checkbox"/> 財源の不足</p> <p><input type="checkbox"/> 行政のNPOに対する理解の不足</p> <p><input type="checkbox"/> 活動の制限を受ける可能性がある</p> <p><input type="checkbox"/> 連携のメリットがない</p> <p><input type="checkbox"/> 団体としてのスキルがない</p> <p><input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)</p> <p>※具体的に:</p>

問15:現時点において、地方公共団体との連携は必要だと考えますか？あてはまるものにチェックしてください。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない
	<input type="checkbox"/> 月に数回程度 <input type="checkbox"/> 月1回程度 <input type="checkbox"/> 年数回程度
	<input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)
	※具体的に:
問16:地方公共団体からエイズ対策事業の委託を受けていますか？あてはまるものにチェックしてください。	<input type="checkbox"/> 現在受託している
	<input type="checkbox"/> 現在は無いが過去に受託した事業がある
	<input type="checkbox"/> 受託したことがない
	…「現在受託している」または「現在は無いが過去に受託した事業がある」にチェックされた方は下記に具体的な事業名をご記入ください。 ※事業名 ※事業名 ※事業名
問17:事業を受託する際やその後、何らかの課題や問題がありましたか？	<input type="checkbox"/> あった …チェックされた方は下記の課題の内容についてもご記入ください。
	<input type="checkbox"/> 受託に至るまでの交渉が複雑だった
	<input type="checkbox"/> 事業の効果が測りにくかった
	<input type="checkbox"/> 事業の実施にあたって協力が得られなかった
	<input type="checkbox"/> 委託契約のシステムが整備されていない
	<input type="checkbox"/> NPOの関わるメリットについての説明が困難
	<input type="checkbox"/> その他具体的に:
<input type="checkbox"/> なかった	
問18:地方公共団体から事業連携の提案を受けたことがありますか？	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった
	…「あった」にチェックされた方は下記に具体的な事業名および、その事業が委託に到ったどうかについても教えてください。 ※事業名 委託の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	※事業名 委託の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	※事業名 委託の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

<p>問19: 地方公共団体との連携によってエイズ対策にもたらされる効果は何だと考えますか？あてはまるものすべてにチェックしてください。</p>	<input type="checkbox"/> 行政ではできない活動を担う
	<input type="checkbox"/> コミュニティとの関係を調整
	<input type="checkbox"/> 行政サービスの補完
	<input type="checkbox"/> 普及啓発の充実
	<input type="checkbox"/> 政策提言・立案に関与する
	<input type="checkbox"/> 行政施策のチェック機能をはたす
	<input type="checkbox"/> コストダウン
	<input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)
	※具体的に:
<p>問20: 地方公共団体との連携によってNPOにもたらされる効果は何だと考えますか？あてはまるものすべてにチェックしてください。</p>	<input type="checkbox"/> 団体の信用力の増加
	<input type="checkbox"/> 財源の安定
	<input type="checkbox"/> 活動の活性化
	<input type="checkbox"/> 情報収集・提供の充実
	<input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)
※具体的に:	
<p>問21: NPOが持つ独自の能力とはなんだと考えますか？あてはまるものすべてにチェックしてください。</p>	<input type="checkbox"/> 専門知識やノウハウ
	<input type="checkbox"/> 当事者等のコミュニティとのネットワークの所持
	<input type="checkbox"/> NPO間のネットワーク
	<input type="checkbox"/> 委託する事業への実績
	<input type="checkbox"/> 法人格の有無
	<input type="checkbox"/> 専門家の関与
	<input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)
※具体的に:	
<p>問22: 地方公共団体によるエイズNPO等への支援は必要ですか？</p>	<input type="checkbox"/> 支援は必要である <input type="checkbox"/> 支援は必要でない
	<p>・・・「支援は必要である」にチェックされた方は下記のような支援を必要としているかについてチェックしてください。</p>
	<input type="checkbox"/> 活動費の助成・補助
	<input type="checkbox"/> 事務所や活動場所の提供・賃貸
	<input type="checkbox"/> 備品や機材の提供・貸与
	<input type="checkbox"/> NPOに関する研修会や講習会の開催
	<input type="checkbox"/> 講師や専門家の派遣
	<input type="checkbox"/> 交流の機会の提供(NPO交流イベントの開催など)
	<input type="checkbox"/> 行政に関する情報の提供
	<input type="checkbox"/> 活動情報発信機会の提供(広報誌、掲示板掲載、HP掲載など)
	<input type="checkbox"/> その他(下のセルに具体的にご入力ください)
※具体的に:	

問23:地方公共団体との連携 やNPOへの事業委託に関して 苦労した点、ご意見などありま したらご記入ください。	※下記の白色のセルに具体的にご入力ください。
	※具体的に:

以上で終了です。ご記入ありがとうございました。

厚生労働省エイズ対策研究事業
 「地方公共団体-NPO連携による個別施策層を含めたHIV対策に関する研究」
 研究代表者 嶋田憲司 研究事務局(担当:藤部、太田)宛
 (FAX:03-3229-7880またはE-mail: occur@kt.rim.or.jp) にご返信ください。

研究2

地方公共団体－NPO連携によるHIV対策に対する
地域の実情に応じた支援手法の開発

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)
分担研究報告書
研究2 地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策に対する
地域の実情に応じた支援手法の開発

分担研究者：大石 敏寛（せかんどかみんぐあうと）
研究協力者：飯塚 信吾（特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい）
太田 昌二（特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい）
岡島 克樹（大谷女子大学 人間社会学部 専任講師）
河口 和也（広島修道大学 人文学部 教授）
新美 広（特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい）
藤部 荒術（特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい）

研究要旨

地方公共団体のコミュニティ向けの取り組みをNPO/NGO等が支援することで連携し、エイズ対策を事業化することは、今後の地方公共団体のエイズ対策の可能性を広げ、国のエイズ施策に貢献するものである。本研究では、「地方公共団体とNPO/NGO等の連携によるコミュニティへの効果」を意識し、その実現のために、①NPO/NGO等の連携による一般層への検査事業の実現と普及、②NPO/NGO等の連携による個別施策層への普及啓発事業の事業化、③コミュニティ内部への啓発効果の波及の3つの目的を掲げ、NPO/NGO等の連携による個別施策層に対するHIV対策の多様化、地方公共団体の施策策定への貢献を目指す。

本研究は、地方公共団体に対して、MSM向け普及啓発事業ならびに一般層向け検査事業をNPOとの連携により実施し、その事例化と普及を目指し、研究①MSM向け普及啓発の事業化の推進と評価、研究②地方公共団体-NPO連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進、の2つの枠組みで実施する。

研究①「地方公共団体-NPO連携によるMSM向け普及啓発の事業化」では5自治体12事業において、MSM向けHIV普及啓発事業連携を達成した。事業は、「予防啓発プログラム」、「啓発資料開発」、「啓発資料配布」、「専門家研修」の4つを選択し、昨年度策定した事業の成長段階に応じた戦略も検討できるモデルにもとづいた実施を行った。本年度は複数の事業を採用する地方公共団体が2カ所増加し、NPO連携という手法を通じ、MSM向けHIV普及啓発事業の充実が着実に進んでいる事例となった。課題としては、今後の実践において、これらの事業拡大モデルの効果評価を実施し、他地域に普及する必要がある。個別事業の評価については、プログラム実施前、実施直後、実施1ヵ月後の質問票調査で知識の向上、リスク要因の改善、性行動において有意な効果が確認され、行動変容をもたらすプログラムであることが確認された。

研究②「地方公共団体-NPO連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進」では、地方公共団体との継続した連携により3地域(さいたま市、中野区、埼玉県)の地方公共団体とNPOの連携による検査事業を実施した。うち2地域は継続での実施、1地域が新規の実施である。さいたま市においては、継続した連携をもとに支援をおこなった結果、本年度からの地方公共団体の自主財源での事業継続を達成した。中野区では、昨年度有意にMSM層の受検者が多いという特徴から、今年度はMSM層対象の広報により受検者層のターゲット化を実施し、事業改良に成功している。さらに、新規に検査事業連携を達成した埼玉県との連携による検査事業は、埼玉県・さいたま市・NPOの三者の協働により、「拡大実施」という形式をとった。この事例は、複数の行政による連携という非常に希有な事例となると同時に、地域の検査ニーズの拡大傾向に 대응する、利便性の高い地域の拠点となる検査場となる効果があり、今後他の地域においても参考となる連携事例となった。

A. 研究目的

昨今のエイズ対策においては、感染の増加が著しい同性愛者や青少年など個別施策層に対して、対象者の状況をふまえた取り組み（個別施策層対策）が強く求められており、平成 18 年改正後の「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（以下「エイズ予防指針」という。）」においては、MSM 向け HIV 対策について、1)「感染のリスクを避けられる行動への変容」に繋がる普及啓発、2) NPO/NGO 等との連携、3) 検査・相談の利便性に対する施策と定量的な指標を含めた施策の目標の設定が求められている。

また、「NPO/NGO 等との連携」については、「国、地方公共団体、医療機関及び患者団体を含む NPO/NGO 等が共に連携する」（秋野公造、エイズ予防指針改正後のエイズ対策について、保健医療科学第 56 巻 3 号、平成 19 年）ことが提唱され、NPO/NGO 等との連携強化は施策の普及を支える新たな手法として位置づけられており、その必要性が高い。さらに、国と地方公共団体との役割分担についても、エイズ対策の実施においては、「感染の予防及びまん延の防止を更に強力に進めていくためには、互いの比較優位性を十分に踏まえた上で地方公共団体（特に都道府県）が中心となってエイズ対策を実施していくことが必要である」（秋野公造、エイズ予防指針改正後のエイズ対策について、保健医療科学第 56 巻 3 号、平成 19 年）とされ、地方公共団体が中心となって検査・相談体制の充実、普及啓発等のエイズ対策の実施を図ることが求められている。

このように NPO/NGO 等との連携を視野に入れて個別施策層を含めたエイズ対策を検討するためには、MSM 向け HIV 対策の普及においては、予防教育の実施と啓発をそれぞれの個別当事者コミュニティに向けて実施すること、一般層向けのエイズ対策においては検査事業をはじめとする事業を地域コミュニティのために事業化することが重要である。このような地方公共団体のコミュニティ向けの取り組みを NPO/NGO 等が支援することで連携し、エイズ対策を事業化することは、今後の地方公共団体のエイズ対策の可能性をひろげ、国のエイズ施策に貢献するものである。

そこで本研究では「地方公共団体と NPO/NGO 等との連携によるコミュニティへの効果」を意識し、その実現のために以下の 3 つの目的を掲げた。

- ① NPO/NGO 等の連携による一般層への検査事業の実現と普及
- ② NPO/NGO 等の連携による個別施策層への普及啓発事業の事業化
- ③ コミュニティ内部への啓発効果の波及

以上から、NPO/NGO 等の連携による個別施策層に対する HIV 対策の多様化、地方公共団体の施策策定への貢献を目指す。

B. 研究方法

本研究は、地方公共団体に対して、MSM 向け普及啓発事業ならびに一般層向け検査事業を NPO との連携により実施し、その事例化と普及を目指し、①MSM 向け普及啓発の事業化の推進と評価、②地方公共団体－NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進、の 2 つの枠組みで実施する。

- 1) 地方公共団体－NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化の推進と評価

個別施策層（MSM）に向けた地方公共団体－NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化においては、4 種類の事業（予防啓発、研修、啓発資材開発、啓発資材配布）の連携を実施し、地方公共団体と NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化を図り、複数地域で 15 事業の連携を実施した。

また、特に予防啓発においては、5 つの地方公共団体と NPO 法人アカーの連携により、個別施策層である MSM の行動変容を目的としたワークショップ「LIFEGUARD」を実施した。

- 2) 地方公共団体－NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進

地方公共団体との継続した連携により、3 地域（さいたま市、中野区、埼玉県）における地方公共団体－NPO との連携による検査事業を実施し、この実践例について、事例化を行った。特に今年度、新規に連携を達成した埼玉県での連携事例は、既存の地域の事業と協働し拡大実施することで、より地域性が高い検査ニーズに即した事例を実践した。

（倫理面への配慮）

「疫学研究に関する倫理指針」を遵守する。調査対象者には調査の主旨について十分な説明と同意を得てインタビュー、質問票調査を行い、研究に対し異議がある場合には、拒否できる機会を保障する。また、個人が不利益を受け

ることのないよう、プライバシーには特段の配慮を行う。さらに、本研究事業全体を通して、個別施策層である同性愛者等に対しては社会的な偏見や差別を受けやすいことへの特段の配慮をもって、対応していくこととする。

C. 研究結果

1) 地方公共団体-NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化の推進と評価

1-1) 事業化の推進について

地方公共団体と NPO の連携による利点は、それぞれの機関が有している教育手法、相談のスキル、コミュニティに関する情報等を共有化することにより、より効果的で効率の良いエイズ対策を展開することにある。そのためには、お互いの情報を交換し、理解しあえる場を持ち、課題を明確にし、Deming Wheel (PDCA サイクル) をもとにした施策を展開していくことが必要である。本年度は、平成 19 年度に試作、平成 20 年度において改良を加えた PDCA サイクルをもとにした「プロジェクト・マネジメントモデル」をもとに、長期の連携を地方公共団体とともに継続した。その結果、地方公共団体との連携を実施し、地方公共団体-NPO 連携事例として、5 自治体 12 事業の MSM 向け HIV 普及啓発事業連携を達成、ならびに 3 自治体における検査事業連携を達成した。(表 1)。

表 1 地方公共団体-NPO 事業連携実績

	予防啓発プログラム	啓発資材開発	啓発資材配布	専門家研修	検査事業
地域 1	●			●	
地域 2	●	●	●	●	
地域 3	●	●	●		
地域 4	●	●	●		
地域 5	●	●	●		●
地域 6					●
地域 7					●

これらの事業は、昨年度本研究において HIV 対策の各地方公共団体における展開を考慮し、

モデル化した「HIV 対策の多角化マトリックス」(表 2) をもとに選択した 1) 予防啓発プログラム、2) 啓発資材開発、3) 啓発資材配布、4) 専門家研修の 4 つの事業を参考に、地方公共団体-NPO 連携による MSM 対象の普及啓発事業として実践した。

本年度は 7 自治体 15 事業での連携を達成し、内 3 自治体は 4 事業を実施、1 自治体は 3 事業を実施し、昨年度に比較して、複数の事業に連携を拡大した自治体が増加した。

表 2 HIV 対策の多角化マトリックス

	提供する啓発事業	
	既存	新規
コミュニティ	1) コミュニティ浸透 予防啓発プログラム	2) 啓発事業開発 啓発資材開発
	3) コミュニティ開拓 啓発資材配布	4) 多角化 専門家研修

1-1-1) 予防啓発プログラム事業連携

小グループレベルの予防啓発プログラム「LIFEGUARD (ライフガード)」を全国 9 箇所で開催した(実施期間:平成 22 年 10 月 3 日~平成 22 年 12 月 18 日)。実施状況の詳細は、表 3 のとおり。

このうち 5 カ所は東京都内の実施で、その他と都道府県 2 カ所、政令指定都市 1 カ所、特例市 1 カ所で開催した。なお、7 カ所については、5 自治体(東京都、埼玉県、静岡県、川崎市、北九州市)との行政連携(委託、協賛)事業として実施した。

LIFEGUARD は MSM を対象としたワークショップ形式の予防啓発プログラムであり、このプログラムは、厚生労働省エイズ対策研究事業「同性愛者等の HIV 感染リスク要因に基づく予防介入プログラムの開発及び効果に関する研究(主任研究者:大石敏寛)」の中で開発されたエイズ予防啓発のためのプログラムである。その介入の効果は統計的にも有意な結果が得られていることで、地方公共団体においても活用可能な効果評価を伴ったプログラムである。

予防介入対象はのべ 222 名(1 会場平均 24.7 名)で、参加者の平均年齢は 29.9 歳であった。

(10 代:2 名、20 代:78 名、30 代:88 名、40 代:31 名、50 代:3 名、19 歳~58 歳)

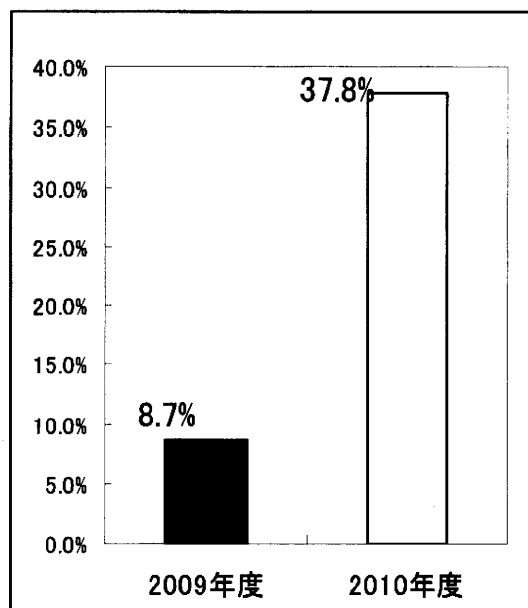
プログラムの内容構成は添付資料 2 のとおりである。

表3 LIFEGUARDの実施状況

会場	日程	曜日	行政連携	参加人数
バーK	10月3日	日	○	38
バーM	10月17日	日	○	22
バーD	10月30日	土		30
バーS	10月31日	日	○	25
バーG	11月7日	日	○	25
公共施設J	11月28日	日	○	5
バーZ	12月1日	水	○	27
公共施設K	12月5日	日		31
バーJ	12月18日	土	○	19

また、本年度は対象層をより詳細化する目的で、インターネットやソーシャルネットワークサービスなどにおける広報・アウトリーチを実施し、提供する情報の質的・量的増加を図った。その効果について、昨年度と本年度のアンケート調査結果を比較したところ、下記のグラフのようにプログラムの情報認識度が大幅に増加した。

グラフ：「プログラムの情報認識度」



1-1-2) 啓発資材開発事業連携

同性間性的接触における HIV 感染リスク要因のアセスメント調査の結果を反映することで科学的な予防啓発資材を企画・作成する事業を3地域で実施した。当該地域の HIV 検査相談等の情報や地域独自の情報についても掲載し、また地方公共団体の要望なども反映することで、地域内の同性愛者等の予防行動および検査

相談の普及に資するパンフレットを制作している。

1-1-3) 啓発資材配布事業連携

啓発資材を効果的に当事者に配布するための配布事業を3地域で連携して実施した。効率的な配布にあたっては、検査や相談を行っている施設のほか、同性愛者の集まる商業施設等を重点的に対象とする必要がある。配布にあたっては、施設オーナーやコミュニティ内での配布についての理解や同意を取り付ける作業から実効的に流通・普及させるための配布方法の普及、紹介（クチコミ）などの協力、事後及び継続的な管理や関係の維持のための関係づくりまで行われている。

1-1-4) 専門家研修

個別施策層対策を実施する前に医療分野や行政分野など、関係諸機関への研修を1地域で実施した。HIV 感染者を講師とし、感染者による体験をもとにしたエイズ教育についての講義（保健師、拠点病院などの医療従事者、教員向け）や研究班員による予防啓発プログラムや同性間の HIV 対策のあり方についての講義（自治体担当、保健所職員向け）、ロールプレイやグループワークなどを利用した研修会を実施した。

1-2) 事業の評価について

連携した事業に関し、その普及効果の把握と地方公共団体の事業化の促進のために、実施した小グループレベルの予防啓発プログラム「LIFEGUARD」の効果評価を行った。

1-2-1) プログラムの評価方法

LIFEGUARD 参加者 222 名のうち、質問票調査を実施したところ、LIFEGUARD 前（プレテスト）222 名、LIFEGUARD 実施直後（ポストテスト）222 名、LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後（フォローテスト）116 名から回答が得られ、これらの回答を評価分析の対象とした。

1-2-2) プログラムの評価結果

1-2-2-1) 影響評価

a) 知識・意識（リスク要因）の変化について

LIFEGUARD 実施前後の知識や意識（リスク要因）の変化を検証するため、LIFEGUARD 実施前、実施直後、実施 1 ヶ月後に、参加者へ次の項目についてアンケート調査を実施した。

○知識項目
(1) HIV の可能性のある体液はどれだと思いますか？あてはまるものすべてに \checkmark をつけてください。(①血液、②汗、③ちっ分泌液、④だ液、⑤精液、⑥先走り液)
(2) HIV の可能性のある体の部分は何だと思いますか？あてはまるものすべてに \checkmark をつけてください。(①肛門の中、②へそ、③口の中、④亀頭、⑤尿道口)
(3) HIV の可能性のある行為はどれだと思いますか？あてはまるものすべてに \checkmark をつけてください。(①キスする、②ゴムなしでフェラチオする、③ゴムなしでフェラチオされる、④ゴムなしでアナルセックスする(挿入する)、⑤ゴムなしでアナルセックスする(挿入される)、⑥相互オナニーする)
(4) エイズ検査 (HIV 抗体検査) について、正しいと思うものすべてに \checkmark をつけてください。(①検査を受けなくても感染の有無は分かる、②検査は全国の保健所で匿名・無料で受けられる、③正確な検査を知るには感染後一定の期間が必要である、④受けたその日に陰性かどうか分かる検査がある)
○リスク要因項目
(5) コンドームを使うセックスに抵抗がありますか？(6点満点(1点:とてもある~6点:まったくない)で評定)
(6) セイファーセックスで気持ちよく(セックス)できると思いますか？(6点満点(1点:まったくそう思わない~6点:とてもそう思う)で評定)
(7) セイファーセックスをやってみたい/やっていきたいですか？(6点満点(1点:まったくそう思わない~6点:とてもそう思う)で評定)
(8) 魅力的な相手とのセックスのとき、HIV 感染のことはどうでもよくなりますか？(6点満点(1点:かなりある~6点:まったくない)で評定)
(9) 周りのみんなはアナルセックスのときゴムを使っていると思いますか？(6点満点(1点:まったくそう思わない~6点:とてもそう思う)で評定)
(10) エイズはあなたにとって身近なことですか？(6点満点(1点:まったくそう思わない~6点:とてもそう思う)で評定)
(11) 相手がコンドームなしで、アナルセックスをしようとしたら、それを避けるテクニックを知っていますか？(4点満点(1点:まったく知らない~4点:かなり知っている)

で評定)
(12) コンドームなしでフェラチオする場合、HIV に感染しないでしゃぶるテクニックを知っていますか？(4点満点(1点:まったく知らない~4点:かなり知っている)で評定)
(13) あなたはセイファーセックスできると思いますか？(4点満点(1点:いつでもできると思う~4点:絶対できないと思う)で評定)
(※ (1) ~ (4) は正答の場合に1点加点する。(1) 6点満点、(2) 5点満点、(3) 6点満点、(4) 4点満点)

上記 (1) ~ (13) の各項目における回答について、正答の場合に1点加点する方式で集計をおこなった。分析については、その平均の差について、分析①、分析②の2通りの方法で検証を行った。

分析①では、LIFEGUARD 実施前と実施直後の回答の差の検証を行った (t 検定を実施)。結果は次の表4のとおり。

<分析①結果>

表4 LIFEGUARD 実施前後アンケートのt検定

	有効回答数	平均点		有意確率
		実施前	実施直後	
(1)体液知識	222	4.10	5.81	0.000
(2)部位知識	222	3.85	4.55	0.000
(3)行為知識	222	4.40	4.85	0.000
※感染知識合計	222	12.80	14.76	0.000
(4)検査知識	222	3.09	3.55	0.000
(5)コンドーム抵抗感	206	5.16	5.57	0.000
(6)セーファーセックス肯定感	206	4.92	5.52	0.000
(7)行動変容意図	203	5.15	5.76	0.000
(8)魅力快感	201	4.47	4.93	0.000
(9)周囲規範	205	3.60	4.19	0.000
(10)親近感	206	4.51	5.09	0.000
(11)主張スキル(アナルセックス)	202	2.77	3.30	0.000
(12)主張スキル(オーラルセックス)	205	2.42	3.24	0.000
(13)自己効力感	207	3.38	3.78	0.000

(1) ~ (13) の全ての項目について有意確率が 0.000 となった。平均点を比較すると、全ての項目で実施後が上回っているため、事後の方が、事前よりも有意に平均点が高く、LIFEGUARD の効果が確認できる。

続いて、分析②では、LIFEGUARD 実施前、実施直後、実施 1 ヶ月後の回答の差の検証をした（分散分析を実施）。分析②の結果については次の表 5 のとおり。

平均点を見ると、LIFEGUARD 後及び

<分析②結果>

表 5 LIFEGUARD 実施前・実施直後・1 ヶ月後の分散分析

項目	有効回答数	平均点			要因間	有意確率
		実施前 (プレ)	実施直後 (ポスト)	1ヶ月後 (フォロー)		
(1) 体液知識	116	3.99	4.60	5.76	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.000
(2) 部位知識	116	3.77	4.60	4.50	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.000
(3) 行為知識	116	4.41	4.70	5.41	プレ・ポスト	0.151
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.000
※感染知識計	116	12.46	14.79	15.66	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.001
(4) 検査知識	116	2.97	3.57	3.72	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.241
(5) コンドーム抵抗感	106	4.84	5.70	4.90	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	1.000
(6) セーフなセックス肯定感	106	4.73	5.71	5.56	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.166
(7) 行動変容意図	103	4.97	5.80	5.73	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.793
(8) 魅力快感	102	4.23	5.03	5.15	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	1.000
(9) 周囲規範	105	3.66	4.44	4.83	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.020
(10) 親近感	106	4.42	5.25	5.47	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.315
(11) 主張スキル(アナルセックス)	104	2.72	3.36	3.55	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.003
(12) 主張スキル(オーラルセックス)	106	2.45	3.27	3.40	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.189
(13) 自己効力感	107	3.29	3.79	3.86	プレ・ポスト	0.000
					プレ・フォロー	0.000
					ポスト・フォロー	0.537

LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後の方が、LIFEGUARD 前より全ての項目で上回っているため、「LIFEGUARD 後及び LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後の方が、LIFEGUARD 前よりも有意に平均点が高い」と結論でき、LIFEGUARD 実施による効果があったものと判断できる。

b) HIV 予防に係る意識の変化について

LIFEGUARD 実施前と実施 1 ヶ月後で、HIV 予防の性行動の意識における変化があるかどうかを検証するため、LIFEGUARD 実施前と実施 1 ヶ月後に、参加者へ、次の (1) ~ (4) の項目についてアンケート調査を実施した。

(1) フェラチオのとき、生で（ゴムなしで）口の中に射精されることは、どのくらいありましたか？（4点満点（1点：まったくなかった～4点：よくあった）で評定。※「フェラチオしていない」は0点）
(2) 特定の人とのアナルセックスのとき、どのくらいコンドームを使いましたか？（4点満点（1点：よく使った～4点：まったく使わなかった）で評定。※「バックをしていない」は0点）
(3) 不特定の人とのアナルセックスのとき、どのくらいコンドームを使いましたか？（4点満点（1点：よく使った～4点：まったく使わなかった）で評定。※「バックをしていない」は0点）
(4) あなたはコンドームを持ち歩いていますか？（4点満点（1点：まったく持たない～4点：いつも持っている）で評定。）

評価については、分析③として、LIFEGUARD 実施前と実施直後 1 ヶ月後の回答の差の検証を行った（t 検定を実施）。結果は次の表 6 のとおり。

<分析③結果>

表 6 実施前と 1 ヶ月後アンケートの t 検定

項目	有効回答数	平均点		有意確率
		実施前	1 ヶ月後	
(1)オーラルセックス	85	2.85	3.38	0.001
(2)アナルセックス(特定)	64	2.88	3.48	0.003
(3)アナルセックス(不特定)	48	3.77	3.73	0.622
(4)コンドーム携帯	107	2.26	3.00	0.000

有意確率は (1) が 0.001、(2) が 0.003、(4) が 0.000 となり、「アナルセックス（不特定の相手）」以外の全ての項目で、LIFEGUARD 前と実施 1 ヶ月後で「点数に差がある」と判断できる結果となった。

平均点を見ると、(1)、(2)、(4) の項目において、LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後が LIFEGUARD 前より上回っているため、よりセーフな行動をとるようになったと判断できる。

以上から、LIFEGUARD 実施により HIV 予防に係る意識の変化に効果があったものと判断できる。

c) HIV 検査受検について

LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後のアンケート調査 (N=116) において、イベント後の HIV 検査受検経験について尋ねた。結果は次の表 7 のとおり。1 ヶ月後アンケート回答者の 24.1% がイベント後に HIV 検査を受検したと回答した。

表 7 イベント後 HIV 検査受検経験

	回答数	%
受検した	28	24.1
受検しない	88	76.0

d) 普及行動（LIFEGUARD のことを誰かに話したか？）について

LIFEGUARD 実施 1 ヶ月後のアンケート調査 (N=116) において、イベント後の普及行動（LIFEGUARD のことを誰かに話したか？）につ

いて尋ねた。結果は表8のとおり。

表8 イベント後の普及行動(イベントのことを話した相手)

	回答数	%
友だち	73	62.9
知り合い	50	43.1
セックスパートナー	26	22.4
誰にも話していない	20	17.2

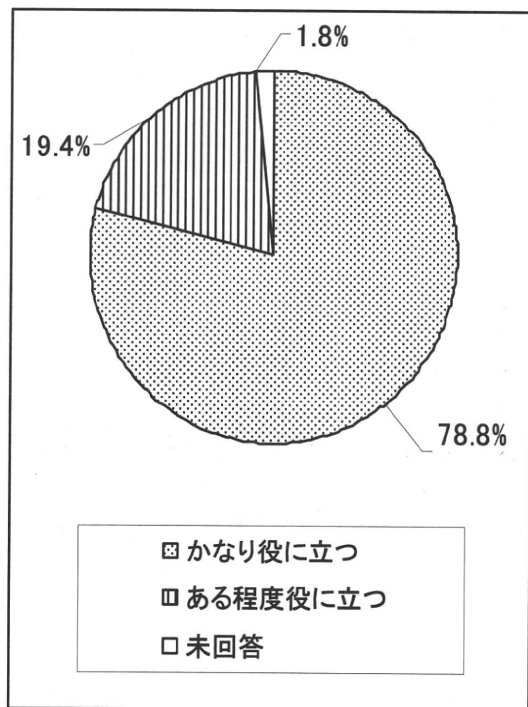
回答者の多くが誰かにLIFEGUARDのことを誰かに話しており、「友だちに話した」割合が62.9%ともっとも大きかった。

なお、話した人数については、「1~5人」が回答者の70.7%、「6~10人」が17.1%、「11人以上」が2.2%であった。

1-2-2-2) 影響評価

プログラム実施直後時点(ポスト)のアンケート調査(N=222)において、感想や意識について質問し、プログラムについての形態評価を実施した。

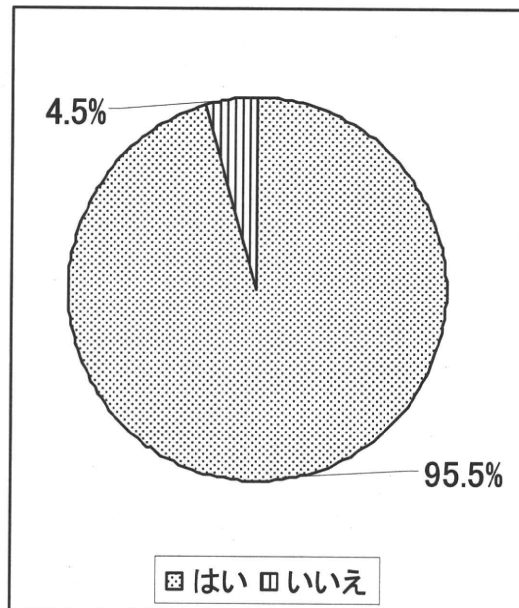
a) LIFEGUARDがエイズ予防に役立つと思うか



「LIFEGUARDがエイズ予防に役立つとおもいますか?」という質問に対し、「かなり役に立つ」、「ある程度役に立つ」をあわせて98.2%

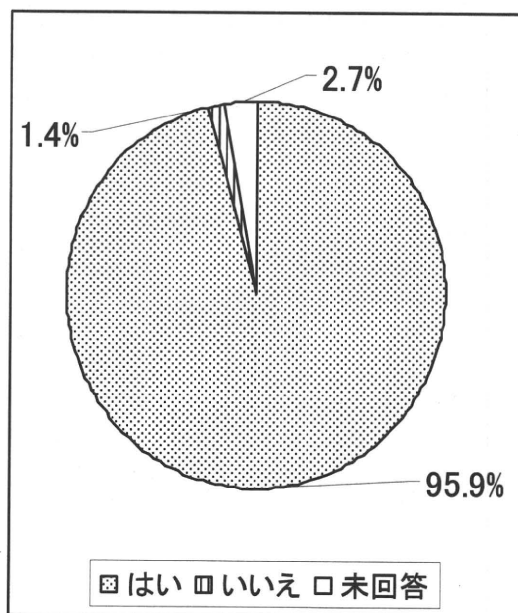
が役に立つと回答した。

b) LIFEGUARDで知りたい知識が得られたか



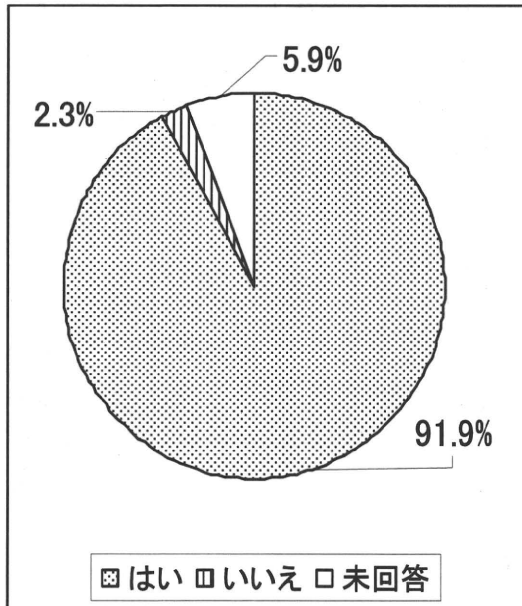
「エイズの基礎情報について知りたいことは得られましたか?」という質問に対し、95.5%が「はい」と答え、基礎情報に関する知識の教育効果が確認された。

c) 検査情報について



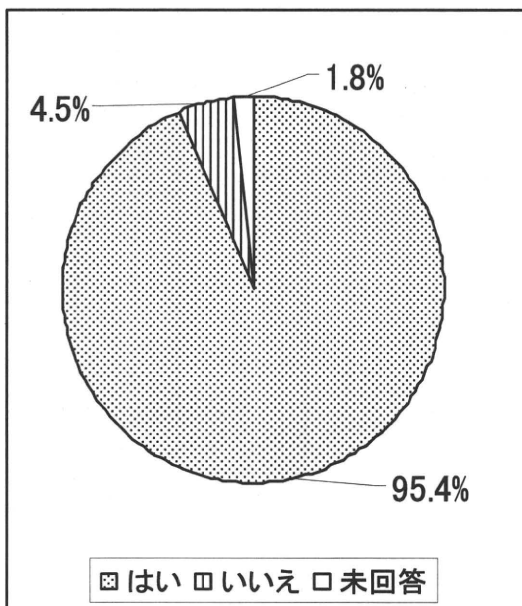
「検査情報では、知りたいことは得られましたか?」という質問に対し、95.9%が「はい」と答え、検査情報の知識に関する教育効果が確認された。

d) 感染後の情報について



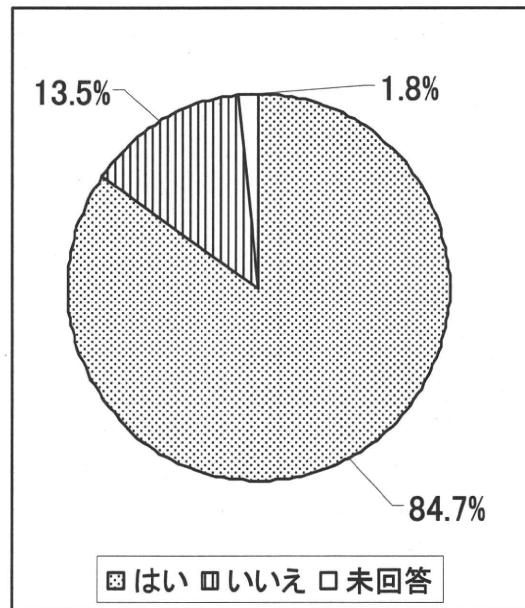
「感染後の情報では、知りたいことは得られましたか?」という質問に対し、91.9%が「はい」と答え、感染後の情報や知識に関する教育効果が確認された。

e) LIFEGUARD の普及意志 (友だちや知り合いに知らせたいと思ったか)



「LIFEGUARD で取り上げたエイズについての話題を友だちや知り合いにも知らせたいと思いましたか?」という質問に対し、95.4%が「はい」と答え、LIFEGUARD の普及意志が増加したことが確認された。

f) HIV ポジティブを身近にとらえる意識 (HIV ポジティブが身近になったか)



「LIFEGUARD を通じて、HIV ポジティブの人が身近になりましたか?」という質問に対し、84.7%が「はい」と答え、HIV ポジティブとの共生についての意識の増加が確認された。

2) 地方公共団体-NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進

地方公共団体との継続した連携により3地域(さいたま市、中野区、埼玉県)の地方公共団体とNPOの連携による検査事業を実施した。

2-1) さいたま市との連携について

さいたま市においては、一昨年度からの継続で月1回の予約制の即日検査を実施、あわせて電話相談・予約回線を設置している。また、さいたま市よりエイズ対策推進協議会員の委嘱を受けエイズ施策に参画し、さいたま市のエイズ対策の発展に寄与した。また、継続した連携をもとに地方公共団体の自主財源をもとにした検査事業の実現に向けた支援をおこない、本年度は地方公共団体の自主財源での事業継続を達成した。

2-2) 中野区との連携について

中野区では、昨年に引き続き地方公共団体の自主財源で検査事業連携を継続実施した。検査事業は「中野区保健所 HIV (エイズ) 即日検査・相談室」として隔月1回の割合で、予約制の即

日検査ならびに電話相談・予約回線を設置した。この連携事例の特色としては、中野区内に拠点を置く地域の NPO との連携によるものであることがあげられる。また、中野区においては昨年度有意に MSM の受検者が多いという特徴があったことから、今年度は MSM 層対象の広報を実施した。また、陽性者の受診率向上をめざし、陽性告知時の相談を NPO 相談員が担当するなどの事業改良を行った。

2-3) 埼玉県との連携について

本年度、新規に埼玉県との検査事業連携を、これまでの事業化の経験をもとにまとめた検査事業化にいたる四段階モデル（表9）により達成した。

埼玉県との連携による検査事業は、平成 22 年 11 月～平成 23 年 1 月の期間に 3 回の臨時検査を実施する形で行った。恒常的でなく臨時検査という形をとったため、広報や事業体制を効果的に整えるために、埼玉県・さいたま市・NPO の三者の協働により、さいたま市と同会場を使用し、時間帯をずらした形で拡大の検査会を運営するという「拡大実施」という形式による事業を展開した。

このことは、複数の地方公共団体による連携という非常に希少な事例となると同時に、地域の検査ニーズの拡大傾向にこたえ、利便性の高い地域の拠点となる検査場となる効果があり、今後他の地域においても参考となる連携事例となった。

このように、地方公共団体-NPO 連携による検査事業については、都市圏と周辺中核市という都市種別、さらに県と市と NPO の連携による実施という革新的な形式、といった特徴ある連携事例を蓄積できた。

このような検査事業連携の推進の成果としては、さいたま市においては、地方公共団体の独自予算化の達成による事業の安定化とエイズ施策への参加や担当者への支援によるエイズ対策への貢献があげられる。また、中野区においては、今年度の事業継続を達成し、事業の改良点として陽性告知時相談を試行したこと、ツイッターなどを活用した MSM 層対象の広報を実施し受検者層のターゲット化を実施し成功したこと、があげられる。今年度新規の事業化を達成した埼玉県においては、さいたま市・埼玉県・NPO の連携により地域の拠点となる検査場を運営できたことで、今後参考となる連携事例となったことがあげられる。

地域の違いや連携手法の違いによる事業展開を事例として蓄積することで、今後、検査事

業のみならずエイズ施策全般の質的な充実を促すことができる事例と推察される。

表9 検査事業化にいたる四段階モデル

	地方公共団体	NPO
①事業提案段階	協議の開始	事業提案
②事業化検討段階	庁内理解の促進	エイズ施策への参画
③事業化決定段階	契約方式の検討	関係機関との調整
④事業実施段階	管理・計画修正	運営手法の整理

D. 考察

1) 地方公共団体-NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化について

MSM 向け HIV 普及啓発事業連携においては、5 自治体 12 事業での連携を達成した。事業は、「予防啓発プログラム」、「啓発資材開発」、「啓発資材配布」、「専門家研修」の 4 つを選択し、事業の成長段階に応じた戦略も検討できるモデルにもとづき実施した。

昨年度実施した事業拡大モデルの設定により、本年度は複数の事業を採用する地方公共団体が 2 ヶ所で増加している。NPO 連携という手法を通じ、MSM 向け HIV 普及啓発事業の充実が着実に進んでいる事例となった。課題としては、今後の実践において、これらの事業拡大モデルの効果評価を実施し、他地域に普及する必要がある。

個別事業の評価については、全国 9 箇所 MSM の行動変容を目的としたワークショップ「LIFEGUARD」における連携事業の評価を実施した。LIFEGUARD 実施前、実施直後、実施 1 ヶ月後の質問票調査で知識の向上、リスク要因の改善、性行動において有意な効果が確認され、行動変容をもたらすプログラムであることが確認された。

さらに、LIFEGUARD 参加者を対象に行った HIV 検査や普及行動についてのアンケートでは、「イベント LIFEGUARD の後、エイズ検査を受けましたか?」という質問に対して、1 ヶ月後の質問票調査協力者のうち、約 24.1% (N=28) がイベント後にエイズ検査を受けたと回答しており、ワークショップ内で該当地域の検査情報を提供することが大きな効果を持っていた。また、ソーシャルネットワークサービスなどを

利用した広報や啓発によって、昨年度に比較して、LIFEGUARDのメッセージを記憶している層が大幅に増加し、今後の啓発手法における新しいメディアの利用が有効であることが明らかになった。このことから、ワークショップと同時に新たな情報普及手法を組み合わせることで複合的な効果を得ることができると推測される。

2) 地方公共団体-NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進

地方公共団体との継続した連携により 3 地域(さいたま市、中野区、埼玉県)の地方公共団体と NPO の連携による検査事業を実施した。

さいたま市においては、さいたま市よりエイズ対策推進協議会員の委嘱を受けエイズ施策に参画し、さいたま市のエイズ対策の発展に寄与したことに加え、継続した連携をもとに支援をおこなった結果、本年度からの地方公共団体の自主財源での事業継続を達成した。

中野区では、昨年に引き続き地方公共団体の自主財源で検査事業連携を継続実施した。また、中野区では昨年度有意に MSM 層の受検者が多いという特徴から、今年度は MSM 層対象の広報を実施し、受検者層のターゲット化を実施し、事業改良に成功している。

さらに、新規に埼玉県との検査事業連携を達成した。埼玉県との連携による検査事業は、臨時検査という形をとったため、広報や事業体制を効果的に整えるために、埼玉県・さいたま市・NPO の三者の協働により、さいたま市と同会場を使用し、時間帯をずらした形で拡大の検査会を運営するという「拡大実施」という形式による事業を展開した。このことにより、複数の地方公共団体による連携という非常に希有な事例となると同時に、地域の検査ニーズの拡大傾向に応えうる、利便性の高い地域の拠点となる検査場となる効果があり、今後他の地域においても参考となる連携事例となった。

このように、地域の財源を確保していくプロセス、事業改良手法の確立、複数の地方公共団体が連携した利便性の高い地域の拠点となる検査場の運営などの側面を記録することで、多様な事例化がなされる。また、この事例を普及していくことで各地域での自律的な NPO 連携の推進につながり、検査事業のみならずエイズ施策全般の質的な充実を促すことにつながることが期待できる。

E. 結論

MSM 向け HIV 普及啓発事業連携は、5 地方公共団体 12 事業での連携を達成した。本年度は複数の事業を採用する地方公共団体が 2 ヶ所増加し、NPO 連携という手法を通じ、MSM 向け HIV 普及啓発事業の充実が着実に進んでいる。課題としては、今後の実践において、これらの事業拡大モデルの効果評価を実施し、他地域に普及する必要がある。また、ソーシャルネットワークサービスなどを利用した広報や啓発によって、昨年度に比較して、LIFEGUARD のメッセージを記憶している層が大幅に増加し、今後の啓発手法における新しいメディアの利用が有効であることが明らかになった。ワークショップと同時に新たな情報普及手法を組み合わせることで複合的な効果を得ることができると推測される。

検査事業における連携では、地方公共団体との継続した連携により 3 地域(さいたま市、中野区、埼玉県)の地方公共団体と NPO の連携による検査事業を実施した。さいたま市においては、さいたま市よりエイズ対策推進協議会員の委嘱を受けエイズ施策に参画し、さいたま市のエイズ対策の発展に寄与したことに加え、継続した連携をもとに支援をおこなった結果、本年度からの地方公共団体の自主財源での事業継続を達成した。中野区では受検者層のターゲット化を実施し、事業改良に成功した。また、新規に埼玉県との検査事業連携を達成した。埼玉県との連携による検査事業は、埼玉県・さいたま市・NPO の三者の協働により拡大実施という形式をとった。このことにより、複数の行政による連携という非常に希有な事例となると同時に、地域の検査ニーズの拡大傾向に応えうる利便性の高い地域の拠点となる検査場となる効果があり、今後他の地域においても参考となる連携事例となった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 原著論文による発表

(1) 国内一論文

○鳩貝啓美、藤部荒術、太田昌二、大石敏寛、

河口和也、新美広、岡島克樹、飯塚信吾 「地方公共団体-NPO連携によるHIV対策に対する地域の実情に応じた支援手法の開発」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2010. P47-67

○嶋貝啓美、飯塚信吾、太田昌二、大石敏寛、岡島克樹、河口和也、杉山雅人、新美広、藤部荒術「予防介入プログラムの評価に関する研究」 厚生科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2009. P19-p34

○柏崎正雄、飯塚信吾、太田昌二、大石敏寛、岡島克樹、河口和也、新美広、嶋貝啓美、藤部荒術、宮近敬三 「予防介入プログラムの評価に関する研究」 厚生科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2008. P21-p38

(2) 国内一学会発表

○嶋田憲司、太田昌二、大石敏寛、河口和也、藤部荒術、飯塚信吾. 『ライフガード2009-2010』～MSM 向け予防啓発事業の実施と普及. 第24回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.

○太田昌二、嶋田憲司、河口和也、藤部荒術、大石敏寛、飯塚信吾. 個別施策層向けのHIV対策並びにNPO連携によるHIV対策に関する地方公共団体向けの質問票調査. 第24回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.

○嶋田憲司、太田昌二、藤部荒術、飯塚信吾、大石敏寛、河口和也. STI/HIV 診療に関する性的指向に基づいた意識調査. 第69回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.

○太田昌二、藤部荒術、嶋田憲司、河口和也、大石敏寛、飯塚信吾. 2地域での地方自治体とNPOの連携によるHIV検査事業の実践. 第69回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.

(3) 海外一学会発表

○Shingo Iizuka, Kenji Shimada, Shoji Ota, Arashi Fujibe, Toshihiro Oishi, Hideo Edo, Kazuya Kawaguchi "LIFEGUARD:HIV prevention campaign for gay men through safer sex workshop at gay bars in Japan-" XVIII International AIDS Conference 2010

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

添付資料1 22年度 LIFEGUARD の内容構成

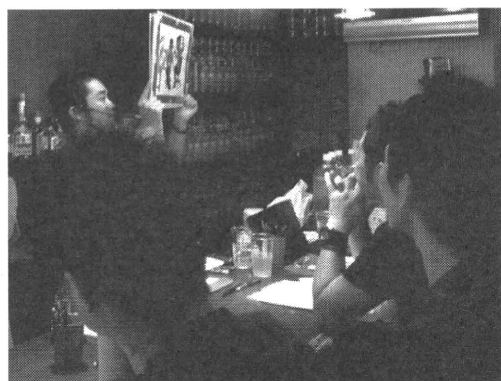
部/名称	内容	リスク要因	時間
【開会】	○事前アンケートへの記入 ○開会挨拶、主催者紹介、開催店等コミュニティ協力者紹介		10分
【導入】	○プログラムのポイントと内容、趣旨の解説 出会いとセイファーセックスのつながりや、交流を通じてお互いがどのようにセイファーセックスしているかを知ることができること	○関心	5分
【1部】 ウォーミングアップ(コンドーム・エクササイズ&レクチャー)	○参加者の緊張をほぐし、学習効果を高めるための「アイスブレイク」(コンドーム使用のエクササイズ、ゲーム方式) ○コンドーム情報提供 サイズ、携帯方法や使用方法、香りや形状などの特徴や入手方法について ○ゲイの青年が登場する紙芝居(以下、紙芝居)で、HIV陽性告知のシーンを紹介することで、2部へレクチャーへスムーズにつなげる。	○コンドーム抵抗感 ○行動変容意図 ○関心	10分
【2部】 検査情報・感染後情報(ミニレクチャー)	○検査情報についてのミニ・レクチャー ・検査をより身近なものとして認識するため、検査に関する意識調査の結果を紹介 ・通常検査(保健所等)における受付～結果まで、実際の検査の流れを紹介 ・ウィンドウペリオドの知識、即日検査など新しい検査状況について情報提供 ・検査を受けられる時間や場所についての情報提供 ・検査が普及されていることや実際の流れを知ること、受検の意思決定を支援する ○感染後についてミニ・レクチャー ・レクチャーの導入に感染者をより身近な存在として認識してもらうためのクイズを行う ・感染後に相談できる場所が充実してきていること。(病院、ソーシャルワーカー、カウンセラー、NGOなど) ・「感染後」について、よりわかりやすくするために「服薬前」と「服薬後」に分けて紹介 ・「服薬前」 ・拠点病院への通院にての確認事項(CD4値やウィルス量)また服薬開始はそれらの結果によること ・この時期は体調管理と日常生活の両立が重要であり、早期受診の必要性をメッセージとして伝える ・「服薬後」 ・服薬の効果と副作用について解説 ・金銭的負担や利用できる制度があることを解説 ・この時期は継続的な治療と生活管理が重要であるというメッセージ ・最新の学説より平均余命について紹介(25歳からの最新治療により40年(65歳)まで) ・HIV感染症および感染者について身近な問題として感じ、合理的・現実的な予防行為の普及を目指す ・紙芝居で、HIV感染後の心境について紹介	○知識 ○周囲規範 ○行動変容意図 ○関心	30分

	○休憩		10分
【3部】 予防知識&セイ ファーセックス・ス キルズ・ビルディ ング(ミニ・レクチ ャー&ワーク)	○予防の知識習得を目指すミニ・レクチャー ・「体液」「身体部位」の2つの観点から予防の知識を解説 ・上記の知識を実際の男性同士(ゲイ)の性「行為」に当てはめてリスクの有無やリスクの高低を解説 ○セイファーセックスがしにくい状況(シチュエーション)における、予防のためのテクニック&コミュニケーション(セイファーセックス・スキル・トレーニング) 1. 参加者ごとにセックスをする相手のイメージとシチュエーションを設定し、セイファーセックスのための、具体的なテクニック(言葉やしぐさ、行為など一連の流れ)を考える 2. 司会からシチュエーションごとの適切なテクニックを模範例として参加者全体に紹介、説明する 3. まずはできる範囲からセイファーセックスすることが大事、というメッセージを伝える ・自分の考えを伝え、かつ他の参加者の考え方をすることで、自分も周囲もセイファーセックスしていることを理解する ・模範例やメッセージを通じて、セイファーセックスのイメージを肯定し、セイファーセックスがしにくい場面でも「リスク回避ができる」という自信をつけ、自己効力感の向上につなげる ・紙芝居を使い、セイファーセックスを阻害している要因や感染した場合の心境について紹介	○知識 ○主張スキル ○周囲規範 ○魅力・快感 ○行動変容意図 ○自己効力感 ○関心	30分
【4部】 まとめと動機付け	○ゲイの間での感染の広がり「身近な問題」「ゲイコミュニティとエイズ」について(動向調査の解説) ○ワークショップ後の受け皿として HIV 情報サイト、検査検索サイト、相談機関等の紹介 ○まずはできる範囲からセイファーセックスすることが大事、というメッセージを伝える	○知識 ○行動変容意図 ○関心	10分
	○閉会		5分
	○閉会挨拶 / 事後アンケートへの記入		10分

※1ヵ月後にフォローアップアンケートを実施

添付資料2

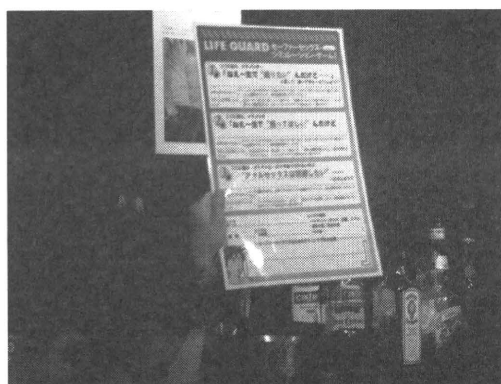
○ ワークショップ会場の様子



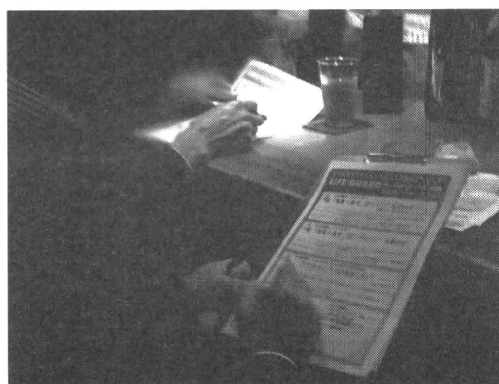
コンドームの使い方の解説とレクチャーシーン。レクチャー後、参加者がエクササイズを行う。



検査情報・感染後情報に関するレクチャーシーン。



1. ワーク(セーフセックスしにくい状況) 進行方法の説明。



2. ワーク(セーフセックスしにくい状況) 実施中の様子。